

第二回理事会報告

日時 平成23年10月4日(火)  
11時～15時

会場 江戸東京博物館  
学習室

出席者 全連退 会長・副会長・常任理事・理事・監事 等77名

司会進行 総務部長 入子祐三

一 開会のことば

副会長(四国) 栗田正己

二 綱領の唱和

教育振興部長 大野幸男

三 会長あいさつ

会長 戸張敦雄

平成23年度は非常に記憶に残る年になると思います。天災等により犠牲になられた方々に対し、心から哀悼の意を表すとともに、被災者の方々に心からお見舞い申し上げます。

野田内閣の所信表明演説の中で、教育関係の項目が2つありました。一つは、この国

に生まれて良かったと実感できるよう、未来への投資を進めたい。もう一つは、新しい時代の開拓者たらんとするグローバルな人材の育成・開発を進めるといことです。学校教育の諸条件の整備・充実について、今後の政策あるいは24年度の予算編成に刮目していきたい。

全連退は、近々設立50年という年を迎えます。私は、全連退の組織のリニューアルが必要であると痛感しています。本部では、会務運営検討会議を設けて、21世紀にふさわしい全連退の将来像を求めて、現在協議を始めています。今後、各都道府県の会長さん方からもご意見を伺うことがありと思いますが、よろしくお願ひ申し上げます。

四 報告事項

(1) 第1回副会長会報告及び

三省庁への要望書の提出について(会報181号参照)

(2) 被災会員等の会費免除に

ついて(白石会計部長) 9月8日現在、1010名の方が免除申請を提出されている。

(3) 各都道府県退職校長会の加入状況調査について(野口総務) 新入会員の加入状況と、途中での会員の動向も分かる調査が良いということ、昨年度と今年度調査をお願いした。表彰に関しては、再検討させて頂くことが必要だと思ふ。本年度は、被災県についての会員数の把握が十分でないので、感謝状の贈呈は見送る。

(4) 上寿者への記念品について(前田福利厚生部長) 過去の事務局長会での廃止方の要望もあり、財務状況等を考慮し、取りやめも止むなしということになった。

(5) 第5回教育図書出版について(事業委員会黒須健児) 東洋館出版社から12月中旬に刊行する運びとなった。全国の都道府県の会長さん

方、執筆された先生方には大変お世話になった。また、各都道府県の会長さんに、この出版物が一冊でも多く現場の教職員の手に渡るようにお願ひしたい。

(6) 各部・各委員会の活動状況と課題について

1 総務部 (略)

2 教育振興部 「教育の日」の制定状況と活動状況についてのアンケート調査を11月末までに回答いただくようお願いする。今年度は主に学校教育との関連から地域社会がどのような役割を担っているのかということを研究している。さらに管理職が重くみている教員の資質を明らかにする研究もを行っている。

3 福利厚生部 関係省庁への要望書の提出。8月には、米寿者・上寿者の調査を行った。米寿者は2656名(昨年より約900名増)、上寿者は103名(昨年より14

名増) 叙勲受賞者の調査を行った。

4 会報部 (略)。

5 会計部 会費納入は順調に行われている。会務の円滑な活動と経費節減を推進するため、財務状況健全化検討会議で議論を重ねている。

6 生涯学習委員会 会員が組織的に活動している生涯学習の事例の収集と、各都道府県が自慢できる、誇れる活動事例の収集に努めている。

7 教育課題委員会 これからの学校教育の在り方の検討に関して、中教審を積極的に傍聴し、資料を入手している。中教審の資質能力向上についての特別部会からの要請で全連退本部としての意見をまとめたものを提出した。(全連退情報第96号参照)

8 事業委員会 (略)  
第2回・第3回常任理事

会の報告 (略)

五 平成23年度の各都道府県退職校長会の概要の作成依頼 (略)

― 休憩・昼食 ―

六 協議事項

(協議題) 各都道府県退職校長会の活動状況と課題

(1) 分科会 8グループにわ

かれて話し合う。今年は、地区ごとのグループではなくいろいろな地区が混ざり合って構成された。(例 Aグループ―北海道・鹿児島・高知・島根・三重・埼玉・東京)

(2) 全体会 (各グループの発表)

Aグループ

特色ある活動の傾向としては、各県本部の活動を充実するというよりも、支部の活動を十分支援して、それらの活動を活性化させる傾向が強い。本部への要望事項では、会報等をA4判にして読みやすくしてもらいたい。慶弔費がか

さむので、これらに対する対策として、費用の面も含めて全連退で調査していただけるとうかがいたい。福利厚生への対策がよく分からないので、もう少し充実した記事を出してもらいたい。

Bグループ

ある県では、教育の日の制定推進協力を退職校長会が担当して、毎年これを実施している。退職校長会を通して親睦を深めていくことに、いろいろな工夫がなされている。人材発掘について、埋もれている方が大勢いるわけで、そういう人達を求めながら進めていくことも必要だ。新入会員の確保に向けて、現職校長に準会員になってもらって、退職と同時に会員になるという方法で、現職時代から退職校長会と連携し、交流を深めている県もある。

Cグループ

「教育の日」について、制定してもそのあとの推進、充

実あるいは市町村への波及という課題がある。ある県では、会員の参加意識を高めるために「たより」に一人200程度を全員に執筆依頼、それを冊子にして配ることを実施している。

Dグループ

教育支援に対して、各都道府県とも大変特色のある、地域に応じた活動が行われている。退職校長会を活性化していくために、宿泊研修会等交流親睦が非常に盛んに行われるようになった。記念誌、機関紙の発行等も読みやすいように工夫されていて、それが啓発活動とつながっていると

Eグループ

ある県では、生涯学習研究協議会の定期的開催、スクールエキスパートの活用事業の重点的な実施、地区の退職校長会の活性化を目指した地区活動支援費の交付、40周年記念の一言集の作成等々多様な

活動が紹介された。教育支援活動について、退職校長会でボランティア名簿を作って、それぞれの所に発送している県発表もあった。

**Fグループ**

各県の特徴ある活動としては、地域や職場における活動を事例集にまとめる、人材バンクを作る、あるいはその実践集を作る、教育支援サポートの名簿を作るなど活動を進めている。会員の研修活動では、県内各支部をグループに分けて、持ち回りで研修会を行い、各支部の自主性、主体性を育てることに大いに役立っている。また、11月に教育月間を設けて、その中で研究協議会をこれまでに20回ぐらい続けてきている県もある。現職教員の研修会を支援しているところもある。

各県それぞれ活発に支援活動、生涯学習活動が行われているという印象を持った。

**Gグループ**

特色ある事業としては、総会の開催地を持ち回りで実施して、地域の特色を生かすように努力したいという提言があった。青少年健全育成とか、教育関係のいろいろな懇談会、教育の日をブロック別を持ち回りで行う所もある。退職校長会としての感謝ある人生を地域で生かしていく方向を大事にしたい。とくに教育の日を通して、地域の教育、文化、風土の醸成にいかに関わっていくか、具体例をもとに、検討を加えながら深めていきたい。

**Hグループ**

組織改革を行ったところ、役員等の職務意識の向上を図ることができたという例があった。福利厚生活動については、笑いの効用が非常に高いものがあるので、大いに取り組むべきではないかという話もあった。善行児童生徒の表彰事業を10年にわたって行っ

ている県もある。また、教育力向上県民フォーラムを実施して効果を上げている県もある。スクールエキスパート事業に取り組んでいるところもある。

**七 会長の「まとめ」**

会長 戸張 敦雄

退職校長会の課題について、今後本部での諸会議で検討し、各都道府県に発信していくと考えています。お互いの退職校長会のインセンティブに効果がある協議、情報交換ができたと安堵しています。一般論として申し上げるのですが、現状を正しく見つめて、課題をえぐりだし、検討していくに当たって大事なことは、正しい心構えとよい意思の二点だと思えます。心構えを正して、よい意思から発したものは非常に実（じつ）のある論であり策であると考えます。今日参会された方々のご意見を伺いますと、よい意思あるいは正しい心構えを一人一

人の方がお持ちなのだと思感いたしました。そういう方々のお話のなかから出てきた事柄は非常に重みのある内容であると受け止めさせて頂きました。私見の一端を述べてこの会のまとめとさせて頂きま

**八 「全連退の歌」斉唱**

指揮 事務局次長 中原慎三

**九 閉会のことば**

副会長（東海北陸）小西 優

